

科目名	リラクゼーション	担当教員	石井 千恵		
学年・学期	2 年 前期	時間数	15	単位数	1

実務経験のある教員等による授業科目

看護師として総合病院産科での実務経験から得た知識・技術をもとに臨床で行うことが出来る実践的なリラクゼーション授業を行う。

授業概要

リラクゼーションの意味とその方法を体得し、患者等及びその家族の支援の方法を学ぶ。
また、セルフケアにも役立つ方法を学ぶ。リラクゼーションの方法を通してスタッフ同士のコミュニケーション等にも役立つ方法を習得する。

授業計画

【講義】

1	リラクゼーションとは何かを知る
2	リラクゼーションの実際を体験する①
3	リラクゼーションの実際を体験する②
4	リラクゼーションの実際を体験する③
5	リラクゼーションの支援の方法を学ぶ
6	リラクゼーションの支援方法を体験する① ※演習室で体験
7	リラクゼーションの支援方法を体験する②
8	まとめ 試験
成績評価法	授業の参加姿勢、レポート、最終筆記試験を合わせて総合的に評価 100 点満点中 80 点以上を「A 評価」、79 点～70 点を「B 評価」69 点～60 点を「C 評価」60 点未満を「D 評価」とし、60 点以上を以って単位を与える。
使用テキスト	有田清子他「系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ」(医学書院)
参考文献	
備考	毎回バイタルサイン測定を実施するので、実施に際し必要な物品を準備してください。 実際に体験するにあたって、必要となる物品はその都度お伝えします。

科目名	看護学概論Ⅰ	担当教員	佐竹 史彦		
学年・学期	1 年 前期	時間数	30	単位数	1

実務経験のある教員等による授業科目

看護師として総合病院での実務経験から得た知識・技術と、基礎教育機関での実務経験をもとに実践的な授業を行う。

授業概要

本科目では、看護を实践するうえでの基盤となる、看護の概念や看護の本質、看護の役割について教授する看護学入門科目である。看護とは何かを学び、看護専門職者に必要な視点や態度を養うとともに、自己の看護観について考える。

授業計画

【講義】

1	ガイダンス 看護とは 看護の本質 看護の歴史
2	看護理論 F. ナイチンゲール「環境論」
3	看護理論 V. ヘンダーソン「ニード論」
4	看護の役割と機能 看護の継続性と情報共有
5	人間とは 人間の「こころ」と「からだ」、生涯発達し続ける存在
6	健康の概念
7	看護学におけるメタパラダイム
8	職業としての看護 看護職者の教育 養成制度の課題
9	看護における倫理
10	看護の提供のしくみ(1) 看護サービスの提供の場
11	看護の提供のしくみ(2) 看護をめぐる制度と政策・看護サービスの管理
12	ポスターセッション「私たちの定義する4つのメタパラダイム」
13	広がる看護の活動領域(1) 国際化と看護
14	広がる看護の活動領域(2) 災害時における看護
15	試験とまとめ
成績評価法	最終筆記試験 100% その他授業・演習の内容で加点をする 100 点満点中 80 点以上を「A 評価」、79 点～70 点を「B 評価」69 点～60 点を「C 評価」60 点未満を「D 評価」とし、60 点以上を以って単位を与える。
使用テキスト	茂野香おる「系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学① 看護学概論」(医学書院) ヴァージニア・ヘンダソン/湯慎ます「看護の基本となるもの」(日本看護協会出版会) V.スクレトコヴィッチ「ナイチンゲール看護覚え書 決定版」(医学書院)
参考文献	
備考	

科目名	基礎看護学方法論Ⅱ	担当教員	佐竹 史彦		
学年・学期	1 年 前期	時間数	30	単位数	1

実務経験のある教員等による授業科目

看護師として総合病院での実務経験から得た知識・技術をもとにフィジカルアセスメント技術習得のための実践的な授業を行う。

授業概要

対象者の身体的・精神的・社会的な健康状態を把握し、必要な看護を見出すためのヘルスアセスメント技術について教授する。ヘンダーソンの基本的看護の構成要素 14 項目に沿って人間の生活を系統的に捉えるための観察技術ならびにコミュニケーション技術・態度について学ぶ。

授業計画

1	ガイダンス ヘルスアセスメントとフィジカルアセスメントの概念 1.アセスメントとは 2. 観察に必要な技術 3. 面接法による情報収集	講義
2	基本的観察技術と身体各部位の測定方法(身長・体重・腹囲)	講義
3	バイタルサインアセスメント①	講義
4	バイタルサインアセスメント②	講義
5	バイタルサイン測定	演習
6	バイタルサイン測定	演習
7	呼吸器系・循環器系のフィジカルアセスメント	講義
8	呼吸器系・循環器系のフィジカルアセスメント技術	演習
9	消化器系のフィジカルアセスメント	講義
10	筋・骨格・神経系のフィジカルアセスメント	講義
11	消化器系・筋・骨格・神経系のフィジカルアセスメント技術	演習
12	中枢神経系・意識レベルのフィジカルアセスメント	講義
13	精神・社会的側面のアセスメント	講義
14	バイタルサイン測定技術チェック	演習
15	最終試験	筆記試験
成績評価法	出席状況・授業や GW への参加態度・課題・レポート・試験によって評価する。 最終筆記試験(70%)、レポート・課題・演習参画(30%) 100 点満点中 80 点以上を「A 評価」、79 点～70 点を「B 評価」69 点～60 点を「C 評価」60 点未満を「D 評価」とし、60 点以上を以って単位を与える。	
使用テキスト	有田清子他「系統別看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学② 基礎看護学技術Ⅰ」(医学書院) 任和子他「根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 第2版」(医学書院)	
参考文献	医療情報科学研究所「フィジカルアセスメントがみえる」(メディックメディア)	
備考	身だしなみが整っていない場合は、演習への参加は認めないので注意すること。	

科目名	基礎看護学方法論Ⅵ	担当教員	佐々木 美緒
学年・学期	1 年 後期	時間数	30
		単位数	1

実務経験のある教員等による授業科目

看護師として総合病院での実務経験から得た知識・技術をもとに診療技術に関連した実践的な授業を行う。

授業概要

対象者が治療や検査を受けるに至った身体的・心理的状态を理解し、安全安楽に診療過程に応じた看護を実践するために必要な知識および技術を教授する。

授業計画

【講義】

1	与薬の基礎知識 ・与薬とは ・剤形と吸収経路 ・看護師の役割(正しい与薬、薬の管理)
2	経口与薬法 ・援助の基礎知識 ・援助の実際
3	非経口与薬法① ・吸入、点眼、点鼻、経皮的与薬、直腸内与薬の基礎知識、援助の実際
4	非経口与薬法② ・注射(1) 注射の基礎知識
5	非経口与薬法② ・注射(2) 注射の実施法
6	輸血管理 ・援助の基礎知識 ・援助の実際
7	「症状・生体機能管理技術」① ・検体検査の基礎知識 ・援助の実際
8	「症状・生体機能管理技術」② ・静脈血採血の技術
9	実技演習 「静脈血採血」
10	実技演習 「静脈血採血」
11	呼吸を整える看護とは
12	酸素療法・吸引を受ける患者の看護技術
13	酸素療法・吸引を受ける患者の看護技術
14	ME機器の取り扱いと看護職の役割
15	最終試験
成績評価法	出席状況・授業や GW への参加態度・課題・レポート・試験によって評価する。 最終筆記試験(80%)、レポート・課題・演習参画(20%) 100 点満点中 80 点以上を「A 評価」、79 点～70 点を「B 評価」69 点～60 点を「C 評価」60 点未満を「D 評価」とし、60 点以上を以って単位を与える。
使用テキスト	有田清子他「系統別看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学③ 基礎看護学技術Ⅱ」(医学書院)
参考文献	任和子他「根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 第2版」(医学書院)
備考	身だしなみが整っていない場合は、演習への参加は認めないので注意すること。

科目名	成人看護学方法論Ⅱ	担当教員	伏見 由紀		
学年・学期	2 年 前期	時間数	30	単位数	1

実務経験のある教員等による授業科目

看護師として総合病院での実務経験から得た知識・技術をもとに慢性期疾患患者の実践的な看護について授業を行う。

授業概要

慢性疾患・がんなど生涯にわたりコントロールを必要とする患者及び家族の特徴を知り、その人らしい健康生活を維持するための看護の方法を習得する。

授業計画

【講義】

1	I 慢性期看護とは<慢性疾患の特徴、治療の特徴> II 慢性疾患を有する人とその家族の理解
2	III 慢性疾患を有する人とその家族への援助・支援の基本 <セルフマネジメント、教育的支援、社会資源の活用>
3	IV 慢性疾患の主な治療法<インスリン療法・人工透析・ペースメーカー装着・ステロイド療法・インターフェロン療法>
4	IV 慢性疾患の主な治療法<化学療法・放射線療法・造血幹細胞移植・内分泌療法・冠動脈塞栓療法>
5	V 慢性疾患を有する人とその家族への援助 呼吸器系(気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患)
6	V 慢性疾患を有する人とその家族への援助 循環器系(高血圧、慢性心不全)
7	V 慢性疾患を有する人とその家族への援助 消化器系・代謝内分泌系(潰瘍性大腸炎、糖尿病)
8	V 慢性疾患を有する人とその家族への援助 腎泌尿器系(慢性腎不全、前立腺がん)
9	V 慢性疾患を有する人とその家族への援助 血液・免疫系(白血病、HIV)
10	V 慢性疾患を有する人とその家族への援助 脳・神経系(脳梗塞、パーキンソン病)
11	V 慢性疾患を有する人とその家族への援助 感覚器系(視覚障害、突発性難聴)
12	看護事例展開①(2 型糖尿病)患者紹介・情報の整理とアセスメント
13	看護事例展開②関連図と問題リストの作成
14	看護事例展開③看護計画立案
15	試験
成績評価法	最終筆記試験 80%、授業態度・課題 20%で総合的に評価する。 100 点満点中 80 点以上を「A 評価」、79 点～70 点を「B 評価」69 点～60 点を「C 評価」60 点未満を「D 評価」とし、60 点以上を以って単位を与える。
使用テキスト	鈴木久美他「看護学テキスト NiCE 成人看護学:慢性期看護」(南江堂) 香春知永他「系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学④ 臨床看護総論」(医学書院)
参考文献	浅野浩一郎「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学② 呼吸器」(医学書院) 松田直樹「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学③ 循環器」(医学書院) 南川雅子「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学⑤ 消化器」(医学書院) 黒江ゆり子「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学⑥ 内分泌・代謝」(医学書院) 井手隆文「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学⑦ 脳・神経」(医学書院) 今井亜矢子「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学⑧ 腎・泌尿器」(医学書院)
備考	この科目では、看護を学習するため関連する系統部分(基本的な形態学、機能学、病態学など)について理解が必要であり、事前に習得しておくこと。

科目名	老年看護学概論Ⅱ	担当教員	桑藤 裕美		
学年・学期	2 年 前期	時間数	15	単位数	1

実務経験のある教員等による授業科目

看護師として総合病院や地域包括センターでの実務経験から得た知識・技術をもとに実践的な授業を行う。

授業概要

高齢社会にある我が国の現状について学び、老年期にある人々の健康問題と保健、医療、福祉の課題および対策を教授する。また、高齢者の生活機能を整える看護の役割について教授する。

授業計画

【講義】

1	老年看護に活用できる理論・アプローチ① 〈健康の概念・セルフケア・サクセスフルエイジング・ウェルネスアプローチ〉
2	老年看護に活用できる理論・アプローチ② 〈コンフォート・ライフストーリー・レジリエンス〉
3	老年看護に活用できる理論・アプローチ③ 〈エンパワメント・スピリチュアリティ〉
4	「健やかに老い、安らかに永眠する」を支える看護
5	認知症高齢者の支援① 〈認知症と社会制度・認知症の予防〉
6	認知症高齢者の支援② 〈認知症の高齢者への看護〉
7	老年看護学の課題
8	試験
成績評価法	最終筆記試験 100% 100 点満点中 80 点以上を「A 評価」、79 点～70 点を「B 評価」69 点～60 点を「C 評価」60 点未満を「D 評価」とし、60 点以上を以って単位を与える。
使用テキスト	正木治恵他「看護学テキスト NiCE 老年看護学概論」(南江堂) 真田弘美他「看護学テキスト NiCE 老年看護学技術」(南江堂)
参考文献	
備考	

科目名	母性看護学概論	担当教員	松村 由加		
学年・学期	1 年 後期	時間数	30	単位数	1

実務経験のある教員等による授業科目

看護師・助産師として総合病院産科での実務経験から得た知識・技術をもとに母性看護について実践的な授業を行う。

授業概要

母性各期の特徴と発達課題を理解し、母性看護の役割を学ぶ。
母性保健の動向を把握し、母子保健対策を理解する。

授業計画

【講義】

1	母性看護学の概念①母性看護学とは 親になること
2	母性看護学の概念②家族とは 母性看護学の基盤となる理念と概念
3	母子保健統計と社会資源①母子や家族に関わる統計の理解 母子保健統計の理解
4	母子保健統計と社会資源②母子に関わる法律と社会資源 周産期医療体制
5	生殖に関する形態機能とライフサイクル①発生 遺伝
6	生殖に関する形態機能とライフサイクル②性分化のメカニズム 生殖器の形態と機能 社会的・心理的特性から見た女性・男性
7	性と生殖をめぐる倫理的課題
8	国際化の中での母性看護学の役割
9	ライフサイクルにおける性と生殖をめぐる健康支援① 女性のライフサイクルの全体像 思春期
10	ライフサイクルにおける性と生殖をめぐる健康支援② 成熟期
11	ライフサイクルにおける性と生殖をめぐる健康支援③ 更年期
12	ライフサイクルにおける性と生殖をめぐる健康支援④ 老年期
13	女性のライフサイクルの事例 ウェルネス・アプローチ①
14	女性のライフサイクルの事例 ウェルネス・アプローチ②
15	試験
成績評価法	最終筆記試験 80%、授業参加・課題(20%) 100 点満点中 80 点以上を「A 評価」、79 点～70 点を「B 評価」69 点～60 点を「C 評価」60 点未満を「D 評価」とし、60 点以上を以って単位を与える。
使用テキスト	斎藤いずみ他「看護学テキスト NiCE 母性看護学 I :概論・ライフサイクル」(南江堂)
参考文献	
備考	

科目名	精神看護学方法論Ⅱ	担当教員	石井 千恵		
学年・学期	2 年 後期	時間数	30	単位数	1

実務経験のある教員等による授業科目

看護師として総合病院および精神科病院での実務経験から得た知識・技術をもとに精神科看護について実践的な授業を行う。

授業概要

精神疾患を持つ患者への看護の展開について理解する。
地域や精神科以外での精神看護について理解する。

授業計画

【講義】

1	生活を支える制度
2	地域で精神障害者を支援するための方法
3	地域での看護の実際
4	精神疾患を持つ患者の看護過程の展開①
5	身体疾患と精神看護
6	看護カウンセリング
7	リエゾン精神看護
8	コミュニティにおける精神保健・精神看護
9	精神疾患を持つ患者の看護過程の展開②
10	地域で生活するための原則
11	看護における感情労働と看護師のメンタルヘルス①
12	看護における感情労働と看護師のメンタルヘルス②
13	精神疾患をもつ患者の看護過程の展開③
14	精神疾患をもつ患者の看護過程の展開④
15	試験
成績評価法	最終筆記試験 100% 100 点満点中 80 点以上を「A 評価」、79 点～70 点を「B 評価」69 点～60 点を「C 評価」60 点未満を「D 評価」とし、60 点以上を以って単位を与える。
使用テキスト	萱間真美他「看護学テキスト NiCE 精神看護学Ⅰ:精神保健・多職種のつながり」(南江堂) 萱間真美他「看護学テキスト NiCE 精神看護学Ⅱ:臨床で活かすケア」(南江堂)
参考文献	
備考	

科目名	臨床看護総論	担当教員	山崎 紀子
学年・学期	1 年 後期	時間数	30
		単位数	1

実務経験のある教員等による授業科目

看護師として総合病院での実務経験から得た知識・技術をもとに臨床看護について実践的な授業を行う。

授業概要

経過やライフサイクルごとの看護の基本姿勢を学び、健康のニーズの視点から、健康レベルに応じた看護の要点を理解する。

授業計画

【講義】

1	ライフサイクルからとらえた対象者と家族の健康のニーズ
2	家族の機能、対象者と家族の健康のニーズ
3	健康状態の経過に基づく看護① 健康の維持・増進
4	健康状態の経過に基づく看護② 急性期
5	健康状態の経過に基づく看護③ 慢性期
6	健康状態の経過に基づく看護④ リハビリテーション期
7	健康状態の経過に基づく看護⑤ 終末期
8	主要な症状を示す対象者への看護① 呼吸、循環
9	主要な症状を示す対象者への看護② 栄養・代謝、排泄
10	主要な症状を示す対象者への看護③ 活動・休息、認知・知覚
11	主要な症状を示す対象者への看護④ コーピング、安全、安楽
12	治療・処置を受ける対象者への看護① 輸液療法、化学療法、放射線療法
13	治療・処置を受ける対象者への看護② 手術療法、集中治療、創傷処置、身体侵襲
14	まとめ
15	試験
成績評価法	出席状況・授業やGWへの参加態度・課題・レポート・試験によって評価する。 100 点満点中 80 点以上を「A 評価」、79 点～70 点を「B 評価」69 点～60 点を「C 評価」60 点未満を「D 評価」とし、60 点以上を以って単位を与える。
使用テキスト	香春知永他「系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学④ 臨床看護総論」(医学書院)
参考文献	柴輝男他「新体系看護学全書<別巻> 治療法概説」(メヂカルフレンド)
備考	